

### 小学校における禁煙教育について

既に喫煙している成人に対する禁煙指導も大切ですが、未成年にタバコに手を出さないようにすることのほうが更に重要です。そのためには成人前からタバコに対する正しい知識を伝える必要があります。

未成年の喫煙行動をアンケート等から検討すると、初めて喫煙するのは小6から中1頃が最も多く、小学生にとっては中学入学という一大イベントで大人に一步近づいたと感じるのも無理からぬことではありますが、この重要な時期である小学校6年生までにタバコの有害性を正しく伝えておくのが重要と考えております。現在、NPO 法人禁煙ねっと石川では主にこの年代を対象に金沢市医師会および教育委員会と協力し、金沢市をはじめ石川県内で学校まで出向き禁煙教育を行う「出前授業」を行っています。成人になれば喫煙は法的には認められていますが、少なくとも成人までは吸わない、成人になってもタバコの有害性を自分で判断して喫煙しない人が増え、行く行くはタバコのない世界になることを目標にしています。写真は理事長の岩城内科医院院長 岩城 紀男医師が戸板小学校で授業を行っている風景です。